

教材名「二わのことり」(学校図書1年 P22)

内容項目：主として人との関わりに関すること 主題：友情、信頼

1. 本教材について

▼音楽会の練習をするというウグイスと、誕生会をするヤマガラの両方の家に招待されている小鳥たちは、明るくてきれいなウグイスの家へ行く。ミソサザイもみんなと一緒にウグイスの家に行くが、ヤマガラのことが気にかかり、ウグイスの家をそっと抜け出してヤマガラの家に行くと、ひとりぼっちでしょんぼりしていたヤマガラは、涙をうかべて喜んだという話である。

▼山奥のさびしいところにあるヤマガラの家へは行かないが、明るくてきれいなウグイス家に行くという小鳥たちの行動は、音楽会の練習を理由にしているけれど、ヤマガラのお誕生会には行きたくない、という気持ちかもしれない。

▼あるいは、小鳥たちは自分で行動を決めているように見えるけれど、実は女王様の存在のウグイスに従わざるを得ない状況にあったのかもしれない。ウグイスや取り巻きの小鳥たちに疎外されているヤマガラとの間で悩むミソサザイという差別(イジメ)の構造が出来上がっている。

▼「そっとウグイスの家から抜け出し」たミソサザイの行動は、差別を許さない、差別と闘う行動であるとまでは言えないのかもしれないが、その行動によってヤマガラはとてもうれしかったし、その行動はミソサザイの精一杯の行動であったのだろうと思われる。ミソサザイは、自分は何を、何をしにウグイスの家に行ったのか、自分でもわからなくなっていたと思われるが、そのような悩む気持ちの中でヤマガラの家に行こうと行動を起こしたことに気づかせたい。

▼子どもたちの中には、「ヤマガラ」が仲間ハズレのイジメとなっていることに気づく場合があるかもしれない。その場合は、他の小鳥たちを巻き込んで「どうしたらよいか」提案させてみるのも、積極的なイジメ克服の姿勢づくりにつながると思われる。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

▼鳥たちは、ヤマガラのお誕生日に招待されている。鳥たちはヤマガラの家が山奥の寂しいところにあるから行かないという。しかし、それがヤマガラに寂しい思いをさせていることに気づかせ、だということに気づかせ、小鳥たちの行動はそれでいいのだろうか、またミソサザイの行動をどう考えるかなどについて話し合う。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導 入	<p>◆教材文を読む</p> <p>○状況をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷うことなくウグイスの家に行く小鳥たちと、迷いながらもウグイスの家に行くミソサザイ ・みんなが楽しそうであればあるほど、ひとりぼっちのヤマガラのが気がかかるミソサザイ ・ウグイスの家からそっと抜け出シヤマガラの家に行くミソサザイ ・涙をうかべて喜ぶヤマガラ 	<p>○おいしいごちそうを食べて楽しんでいる小鳥たちの様子から、小鳥たちは、音楽会の練習をしなければならなかったから、ウグイスの家に行ったのではないことや、一人ぼっちのヤマガラのは全く考えていないことに気付くことができるようにする。</p>
展 開	<p>◆ミソサザイの気持ちを話し合う</p> <p>○迷った末にみんなと一緒にウグイスの家に行くことにした時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウグイスの家のほうが楽しそう ・ヤマガラはさびしいだろうな ・自分だけ違う行動はしたくないな <p>○そっとぬけだした時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマガラの家に行くと言ったらウグイスは怒るだろうな、やっぱりやめようかな ・誰かを誘うと、迷惑に思われるかな ・みんなを誘いたいけど、勇気がでない ・自分だけでもヤマガラはきっと喜んでくれる 	<p>○ミソサザイの気持ちをいろいろ想像して考える。</p>
ま と め	<p>◆自分ならどうしただろうか考える</p> <p>○想像したミソサザイの気持ちに共感できることや、違うなと思うことなど、自分の体験をもとに自分に引き寄せて考える。</p>	